

2018年度チャネルキャットフィッシュ捕獲状況

三枝 仁

1. 目的

近年、県内で捕獲確認数が増加しているチャネルキャットフィッシュについて、拡散防止対策に資するため、その捕獲に関する情報をとりまとめる必要がある。

2. 方法

2018年度に水産試験場で入手した本種の捕獲情報について、尾数、捕獲場所、捕獲方法を整理した。また、これら捕獲に関するデータを過年度の実績と比較し、現時点の状況を整理した。

3. 結果

今年度の水域別にみた捕獲尾数は、北湖では捕獲がなく、南湖は4尾で前年より減少していた。一方、瀬田川上流（琵琶湖と瀬田川

の境界から瀬田川洗堰まで)で37尾、瀬田川下流(瀬田川洗堰から下流の瀬田川)では49尾が捕獲され、共に過去最大の捕獲数となるなど、瀬田川域での捕獲数の増加が顕著となっている(図1)。

2015年度以降の漁具別の捕獲尾数を表1に示す。今年度に本種を捕獲した漁法は、延縄が最も多く53尾、次いで釣りの32尾、刺網2尾、カゴ2尾、投網1尾であった。なお、上記の捕獲数には、水産試験場の調査で捕獲した瀬田川上流での延縄27尾と瀬田川下流での釣り10尾、瀬田川上流において本種駆除を目的に水産課事業で出漁した延縄での捕獲6尾を含んでいる。

漁具ごとの近年の捕獲尾数の推移をみると、延縄は南湖では6尾から2尾に減少したのに対し、瀬田川上流において大きく増加したほか、瀬田川下流で2015年度並みの捕獲尾数に上昇していた。また、釣りによる捕獲では、2018年度になって新たに瀬田川上流で捕獲されたほか、瀬田川下流で大きく増加していた。一方、近年連続で捕獲されていたエリおよび沖曳網においては、2018年度では捕獲が確認されなかった。

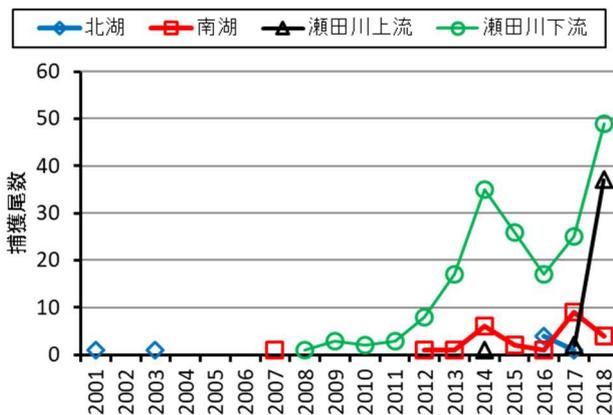


図1 チャネルキャットフィッシュの捕獲状況

表1. 漁法別の捕獲尾数

年度	延縄			釣り			エリ			刺網	カゴ	沖曳	投網	合計	
	南湖	瀬田川上流	瀬田川下流	計	瀬田川上流	瀬田川下流	計	北湖	南湖	計	南湖	瀬田川上流	北湖		瀬田川下流
2015			22	22		1	1		2	2					25
2016			5	5				2	1	3			2		10
2017	6	1	3	10		2	2		1	1	2	1	※1		17
2018	2	*33	18	53	2	*30	32				2	2		1	90
計	8	34	48	90	2	33	35	2	4	6	4	3	3	1	142

※2017年度の沖曳は疑い例

* 調査および駆除事業による捕獲を含む